

本町も早急に対策を講ずるべきと思っがいかか。

高薄町長

高齢化により、同ハウスの限らず、介護付き施設等が望まれてくると思われるため、今後、高齢者へ意向調査をしていきたい。

民間事業者が設置する場合は、土地を提供するなどの考えも持っている。

町として、まちなかへの高齢者集合住宅の建設やケアハウス等の設置も検討していく。

子育て支援の現状と今後の取り組み

加来良明議員

平成17年度より「次世代育成支援行動計画」を策定し、5年を1期として10年間を目途に少子化対策や子育て支援に取り組んでいるが、前期5年を終了し、事業の効果や問題点をどうとらえているのか。

また、今年度より、子育て支援課を設置し、事業を



今後も更なる子育て支援の充実が望まれる。

推進しているが、前期の課題をふまえ、後期5年計画を策定したが、保育の年度末休日や2子以降の保育事業の課題などを含めて計画策定にあたっての考え方と取り組みを伺う。

高薄町長

前期の事業では、子育て支援センターの設置、保育所の保育時間の延長、また学童保育所を清水小学校内の空き教室に開設して定員を増やすなど、子育て支援の充実ができた。そのほか、学校に心の教室相談員の配置、幼保小の連携事業、要保護児童対策地域

協議会の設立、学校での特別支援体制の構築も図ることができた。

後期計画では、保育所の入所基準について特別な事情がある場合の柔軟な対応、春休み期間の保育、幼稚園における一時預かり等、職員の増員を考慮しながら対応していきたい。

子宮頸がん予防ワクチン接種費用に助成を

奥秋康子議員

子宮頸がんは、20〜30歳の女性で増加傾向にあり、進行すると妊娠や出産の可能性まで奪ってしまう、更に命にかかわる危険もあるなど、生活や人生に大きな影響を及ぼす病気である。

免疫力の得やすい中学生に対し、子宮頸がん予防ワクチンを接種することが効果的とされているが、半年間にワクチン接種は3回必要で、その費用は45000円と高額である。

女性の健康を守るため、予防ワクチン接種への公費助成をする市町村が増えているが、本町でのワクチン接種費用の全額公費負担の考えを伺う。

高薄町長

公費での助成は、国・道・町で負担し、来年度から本格実施となる見込みであるが、少しでも早く実施したいと考えている。

医療費無料化、中学生まで拡大を

奥秋康子議員

安心して子どもを育てていくうえで、医療費の負担軽減は重要な課題である。経済不況の長期化による一般家庭の生活苦は厳しさを増しており、医療費は想定できない出費であり、家計を圧迫している。

豊町町など管内5町村が義務教育終了まで通院にかかる医療費も含め、無料化を実施している。本町でも、中学生まで医

療費の全額公費負担を行うことで、家庭の負担軽減と、安心して子育てができる町として定住者が増加することに努めたいと伺う。

高薄町長

無料化を実施すると、年間約1100万円の費用がかかると思込まれるため、現状の財政状況では難しい。しかし、これまでも検討してきた経緯があるので、財政状況をみながら、第5期総合計画のなかで、進めていくように努力していきたい。

高温多雨による農産物被害の対策は

口田邦男議員

今年は異常気象による猛暑となり、農産物には未だかつてない甚大な被害が出ている。

作況調査による被害の分析と課題、今後の営農指導をどう考えるのか。また、今年の被害への対

策等について伺う。

高薄町長

作況調査により被害状況の分析はしているが、今後、地球温暖化の面から、作付け品種の変更等については、専門の研究機関によって十分な検討が必要になると考えられる。そのため、支援策を国や道に強く要請していきたい。

また、営農指導の更なる強化をJA十勝清水町・十勝農業改良普及センターと協議しながら、実施していかねければならない。

今年の被害対策については、全体像が明らかになった時点で、関係機関と連携して、対処したい。

独居老人世帯の安否確認は

口田邦男議員

最近、戸籍上で「生存」となっている住所不明の高齢者が相次いで見つかったという問題で、本町においても管内最高齢の145歳が